

連携と協働で時代を乗り切る

丸善木材株式会社 会長 鈴木 通夫



浜中町の木材コンビナートが先見的と言われていました。この地域は資源が豊富な地域ではありませんので、1社や2社では生き続けることができない地域でした。だから集約化させる。現在ここには3つの協同組合と3つの会社が立地して、そこへ原料を継続的に集めてくる、それらをみんなで処理をしていく。無駄を排除したり、重複投資を避けたり、人間も行ったたり来たり、不足のところを補いながら、そうやってコストを下げ、域外と競争しても負けないような体制を作ろうというのが原点です。

開設当時はカラマツの30年生前後のものばかりでした。製材原料としてはあまり適さないもので、杭丸太かチップが主流でした。そういう中で円柱材などで公園遊具や外構資材など商品開発をしていましたが、円柱加工が出来るならばログハウスを作れるのではないかという発想のもと、北欧のマシンカットログを参考に、試行錯誤しながらオリジナルの機械を開発し、昭和58年からログハウスの事業に取り掛かると全国から受注があり、我々が建築の分野に独自の地位を築く足がかりとなりました。

釧路地域には北海道木質構造開発協議会という地域の建築士が中心になった組織があり、戸建て住宅から公共施設まで、地域の木材を使って様々な建築に挑戦しています。ですからこの地域ではずいぶん前から、顧客の希望する間取りやデザインのオリジナル住宅を大手ハウスメーカーと変わらない性能と価格で提供出来る状況になっています。我々も50棟を超える「か



らまつ住宅」を手掛けていますが、それらの取り組みによって地域材を使っても競争力を持って仕事ができています。

また、この地域は酪農が基幹産業ですので我々も畜舎など農業用の大型施設の木造化にも早くから取り組んでいます。現在までに木造牛舎等、農業関連施設の建築実績は200棟を超えます。

これら木造に関し積み上げてきた様々なノウハウをもとに、一歩進めて素材選定・加工・工法提案・設計支援・施工までをフレキシブルに提案し「木造化を応援」するトータルサポートシステム、「KTC（コウヒン・ティンバー・コンストラクション・システム）」を立ち上げました。

今年は製材工場を新設したいと考えています。大径材も含めて、短い丸太、低質材の中から選び出されたものを効率よく製品化できるような生産施設で、チップ原料の中からログハウスの原料や集成材のラミナ、パレット、製函向けの材料などを製材に使えるものを選んで使っていきます。

それと、一昨年、フォワーダを導入し、新卒2人を雇用しました。この企業集団の中に山の作業のできる人材を育成して、林業会社が必要としたときに応援出来る体制を作らなければならないと考えています。林業会社も組合員ですから、個別の企業では買えない林業機械についても組合で購入し共同利用するなどコストの削減を通じて山林所有者に対する還元が出来るような、良い循環を作っていきたいと思っています。

行動指針は、策定してから40年変わっていません。「木に関する限り我々に不可能は無い、できませんという返答は恥である」、これは言ってみれば我々は木材に対するプロ集団だということを宣言しています。「即納をモットーとせよ。それは顧客を創造する最良の方法であり、顧客への最大のサービスである」これはCS運動のテーマみたいなもの。最後は「付加価値を高めよ、存続しうる糧はそこにしかない。」と企業の永続性を謳っています。この行動指針を全員が承知して、そういう行動を取ってくれているからこそ、今日まで何とか、生き続けてきているということです。

釧路で集成材工場や加工工場などでグループを構成し、原木から建築までの木に関するさまざまな業務をこなす。釧路町、浜中町など。 <http://www.maruzenmokuzai.com/>